

第24回 神奈川県移動性(モビリティ)向上委員会

新型コロナウイルス情勢下の 交通状況分析

- これまでの検討経緯
- 神奈川県内の交通情勢の変化

令和3年8月24日

4-1 これまでの検討経緯（前回委員会までの討議事項）

- 前回の委員会では、「緊急事態宣言中の交通状況」を把握し、報告した。
- 今回の委員会では、緊急事態宣言の発令前後における交通情勢の変化を踏まえ、「新しい生活様式における今後の渋滞対策のあり方」を議論する。

■第22回委員会での討議内容

緊急事態宣言中の交通状況

- 交通量**は平日・休日ともに**減少**。一方、大型車交通量の減少量は小さい。
- 交通量の減少に伴い、**旅行速度も向上**。特に、幹線道路(国道・主要地方道等)で速度向上が顕著。また、交通事故件数も減少。

主要渋滞箇所のモニタリング結果

- 直轄国道における、主要渋滞箇所の**モニタリング基準を満たす箇所は99箇所中31箇所**。残りの68箇所は緊急事態宣言期間においても基準を満たさない。
- 主道路**となる直轄国道では**モニタリング基準を満たす箇所が多い**一方、**従道路**となる補助国道や県道では、未だに**モニタリング基準を下回る箇所が多い**。

■第23回委員会での報告・討議内容

新しい生活様式における交通情勢の変化

- コロナ前後での**交通情勢の変化**について報告
- 新しい生活様式における道路の利用状況の変化**の状況を討議

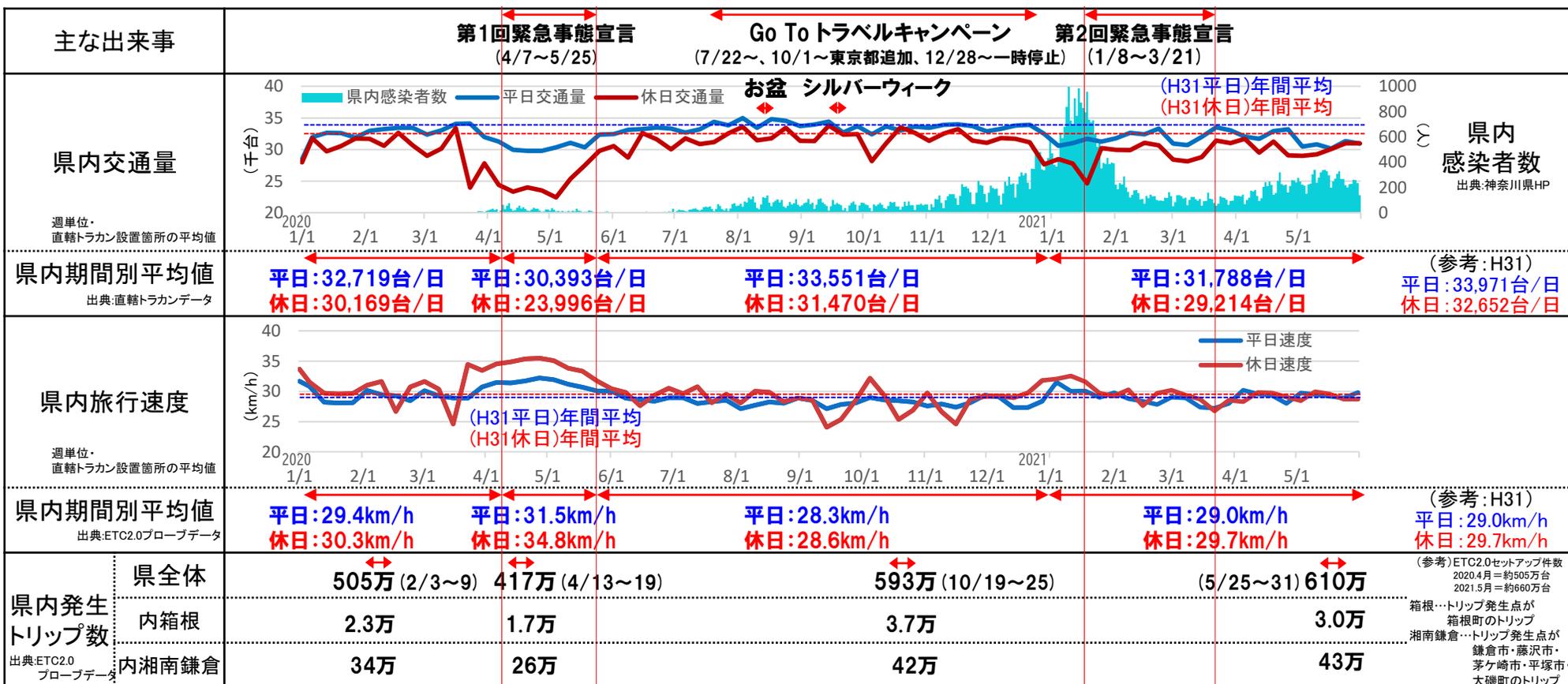
主要渋滞箇所のモニタリング・対策方針検討

- 県内直轄国道以外を含めた**主要渋滞箇所に関するモニタリング結果**を報告
- 緊急事態宣言下においてのみ**モニタリングの指標値を上回る箇所**について、**対策方針**を討議

4 新型コロナウイルス情勢下の交通状況分析

4-2 神奈川県内の交通情勢の変化(継続的な分析)

- 第1回緊急事態宣言下はゴールデンウィーク期間などの休日を中心に交通量・発生トリップ数が減少し、旅行速度が向上。
- 第1回緊急事態宣言解除後は、徐々に交通量・発生トリップ数が増加し旅行速度も低下している。特に、2020年10月には観光地でも発生トリップ数が増加している。
- 2021年には第1回緊急事態宣言前と同程度の交通量・旅行速度となっている。



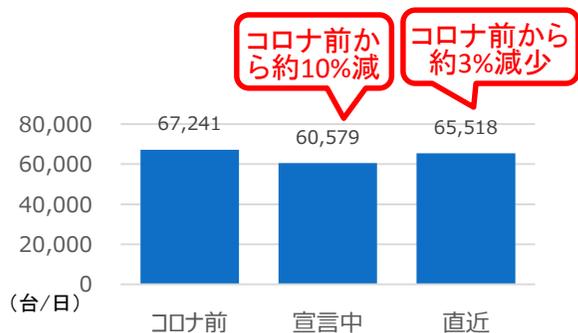
4 新型コロナウイルス情勢下の交通状況分析

4-3 神奈川県内の交通情勢の変化(トリップ長分析(通勤))

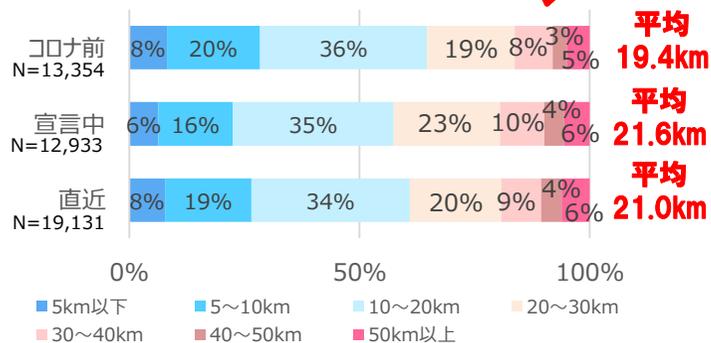
- 緊急事態宣言発令前後の通勤時の交通特性を把握するため、県内4箇所交通量の交通量・トリップ長を分析した。
- 東京都に近い国道246号久地、国道15号宮前町の交通量は、緊急事態宣言期間中(以下、宣言中)に減少したものの、直近ではほぼ同等に回復している。
- トリップ長は、久地・宮前町ともに、宣言中と直近の傾向が近く、コロナ前に比べ短距離の減少傾向が続いている。中長距離トリップの自家用車への移動手段転換が継続していることが考えられる。

国道246号 久地

交通量の推移



トリップ長



(参考)分析断面

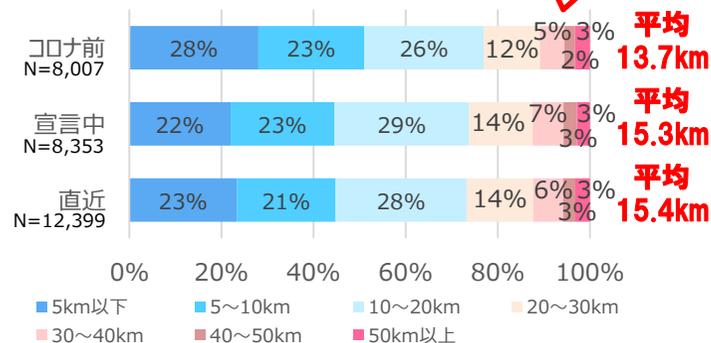


国道15号 宮前町

交通量の推移



トリップ長



出典: ETC2.0プローブデータ
 (車種: 普通・小型及び用途: 乗用のみを対象)
 直轄トラカンデータ
 分析時期: コロナ前 R2.2.4~8
 宣言中(緊急事態宣言期間中) R2.4.13~17
 直近 R3.5.24~5.28

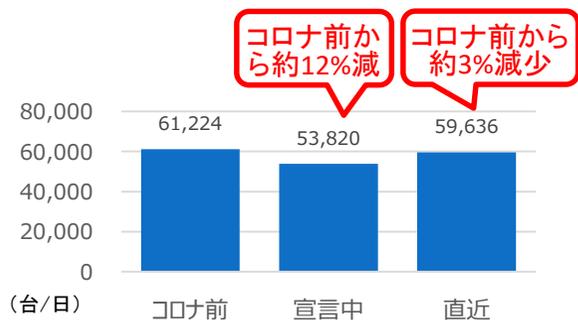
4 新型コロナウイルス情勢下の交通状況分析

4-3 神奈川県内の交通情勢の変化(トリップ長分析(通勤))

- 神奈川県中部における国道1号戸塚・国道246号船子における交通量は、緊急事態宣言期間中(以下、宣言中)に減少したが、直近ではコロナ前とほぼ同等に回復している。
- トリップ長は、戸塚では、宣言中と直近の傾向が近く、コロナ前に比べ短距離の減少傾向が続いており、中長距離トリップの自家用車への移動手段転換が継続していることが考えられる。
- 船子では、宣言中に短距離が大きく減少したが、直近ではコロナ前の分布に近い傾向になりつつある。

国道1号 戸塚

交通量の推移



トリップ長



(参考)分析断面



国道246号 船子

交通量の推移



トリップ長



出典:ETC2.0プローブデータ
 (車種:普通・小型及び用途:乗用のみを対象)
 直轄トラカンデータ
 分析時期:コロナ前 R2.2.4~8
 宣言中(緊急事態宣言期間中) R2.4.13~17
 直近 R3.5.24~5.28

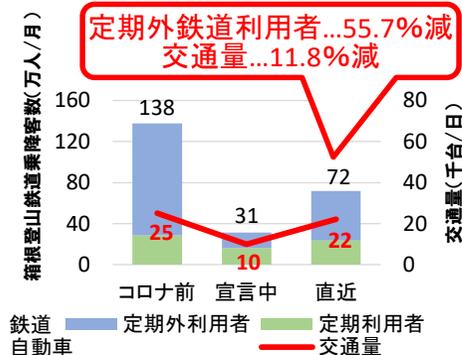
4 新型コロナウイルス情勢下の交通状況分析

4-3 神奈川県内の交通情勢の変化(OD分析(観光))

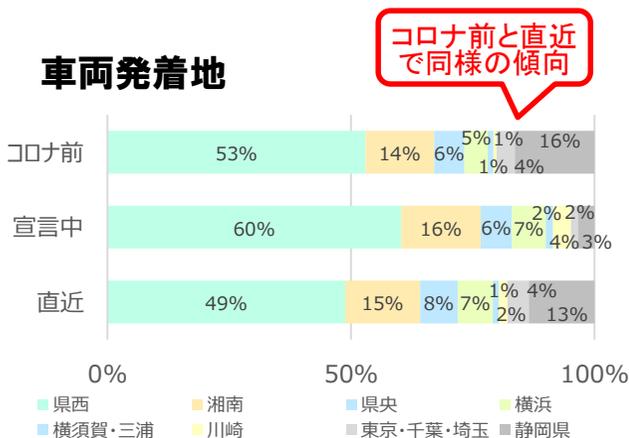
- 緊急事態宣言発令前後での観光地の交通特性を把握するため、県内主要観光地となる箱根地区・鎌倉地区において交通量・トリップ長を分析した。
- GW時期の観光地の公共交通利用者は、箱根地域、湘南鎌倉地域ともに大きく減少。一方で、交通量は減少しているもののコロナ前に近い水準となっている。
- 車両発着地の分布をみると、入生田・七里ヶ浜ともに、直近では、コロナ前と近い傾向となっており、平常時の分布に近付いていることが伺える。

箱根地域(国道1号 入生田)

交通量・公共交通利用者数



車両発着地

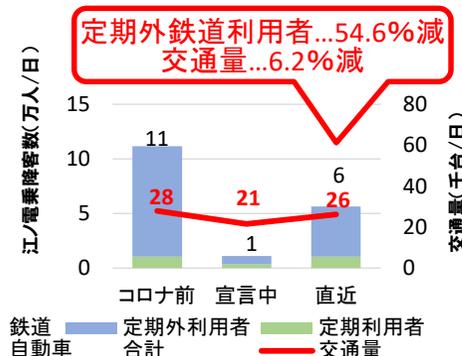


(参考)分析断面・地域区分

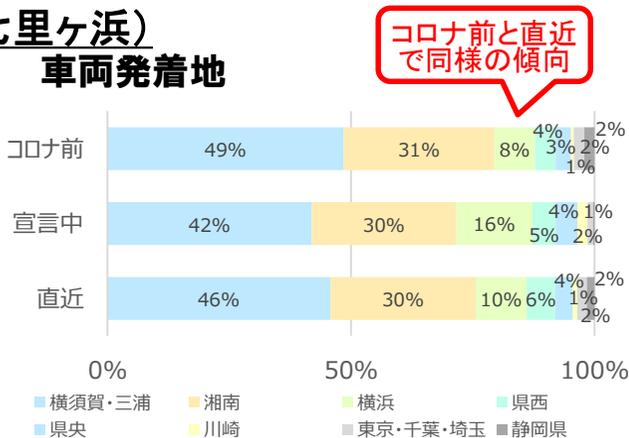


湘南鎌倉地域(国道134号 七里ヶ浜)

交通量・公共交通利用者数



車両発着地



出典:ETC2.0プローブデータ

(車種:普通・小型及び用途:乗用のみを対象)

直轄トラカンデータ(国道1号 入生田断面)

県警トラカンデータ(国道134号 七里ヶ浜断面)

箱根登山鉄道・江ノ島電鉄提供資料

分析時期:コロナ前 H31.4.27-R1.5.6

宣言中(緊急事態宣言期間中) R2.4.29-5.6

直近 R3.4.29-5.5

※箱根登山鉄道利用者数:コロナ前R1.5・宣言中R2.5・直近R3.5の比較
江ノ電利用者数:コロナ前R1.GW・宣言中R2.GW・直近R3.GWの日平均比較